

令和3年度 日本語指導教室実践例①

「サバイバル日本語」プログラム

1 単元名 身近な言葉の使い方を知ろう

2 児童の実態

小学校1年生

出身国（母語）：ブラジル（ポルトガル語）家庭では、英語で会話。

【日本語の力】

ひらがなは、ほぼ読み書きができるが、カタカナは少し読めない文字がある。漢字は、4割くらい読み書きできる。

3 指導の形態

日本語指導教室にて、取り出し個別指導。

4 単元のねらい

- ・よく使われる身近な日本語を習得する。

5 本時の学習

○本時の目標

サバイバル日本語（動詞、形容詞、反対語）を習得する。

○展開

	学習活動	指導上の留意点・工夫
導入	1 カレンダーを見て、会話をする。	・挨拶、日付、天気を聞く。
展開	2 季節カードを見て、やり取りをする。 3 歌を歌う。 4 動詞、形容詞、名詞を覚える。 ・色を覚える。 ・折り紙で風船を作る。 ・いろいろな言葉を覚える。	・春夏秋冬（花、果物） ・手遊び歌「むすんでひらいて」 「おおきなくりの木の下で」 ・難しい言葉は、動作や補足説明をしながら、確認していく。 ・色紙を使い、色を教える。 ・言葉によっては同音異義語があることを教える。 ・身近にあるものを使い、形容詞を教える。 ・ジェスチャーを交え、動詞や反対語を教える。 ・知らなかった言葉を書かせ、黒板に掲示。 ・チェックリストで確認しながら、語彙を増やしていく。
まとめ	5 授業で出てきた言葉をもう一度確認する。	・習得していない言葉をチェックする。 ・授業の感想を聞く。

6 成果と課題

[成果]

- ・季節カードのかるた取りや折り紙の使用など、具体物を使って、実際に触れたり見たりすることで、様子を表す言葉の理解を促すことができた。児童が理解することの難しい動詞や形容詞は、ジェスチャーを使うことで確認ができた。

[課題]

- ・指導者が、説明する時間が長くなってしまいう傾向があるため、インプットとアウトプットのバランスを考えながら、児童が考えたり発言したりする時間を十分に確保していきたい。

7 その他（参考資料）

教師のチェックシート

動詞（うごきをあらわす）		形容詞（ようすをあらわす）		名詞（なまえ）	
1	たつ⇄すわる	1	おおいき⇄ちいさい	1	おとな⇄こども
2	ねる⇄おきる	2	ながい⇄みじかい	2	うえ ⇄した
3	はく⇄ぬぐ	3	ふとい⇄ほそい	3	まえ ⇄うしろ
4	きる⇄ぬぐ	4	おおい⇄すくない	4	たて⇄よこ
5	きる（切る）	5	おもい⇄かるい	5	みぎ⇄よこ
6	あける⇄しめる	6	あつい⇄うすい	6	
7	はいる⇄でる	7	あつい⇄さむい	7	
8	いく⇄かえる	8	あたらしい⇄ふるい	8	カエル
9	まげる⇄のぼす	9	かたい⇄やわらかい	9	
10	のる⇄おりる	10	つよい⇄よわい	10	
11	あがる⇄さがる	11	はやい⇄おそい	11	
12	うごく⇄とまる	12	たかい⇄ひくい	12	
13	たたく	13	たかい⇄やすい	13	
14	ふく（吹く）	14	ひろい⇄せまい	14	ふく（服）
15	ふく（拭く）	15	とおい⇄ちかい	15	
16	ひく（楽器を弾く）	16	ふかい⇄あさい	16	
17	ひく（線を引く）	17	あかるい⇄くらい	17	
18	ひく（風邪をひく）				
19	おす⇄ひく				
20	ならべる	24	たたむ⇄ひろげる	28	わらう
21	あげる⇄さげる	25	あるく	29	おこる（怒る）
22	おる	26	はしる	30	
23	はこぶ	27	なく	31	



令和3年度 日本語指導教室実践例②

「サバイバル日本語」プログラム

1 単元名 わたしは あるきます。(ひろこさんの たのしい にほんご 1)

2 児童の実態

小学校4年生(11月に来日。日本で滞在期間は3か月。)

出身国(母語):中国(中国語)

【日本語の力】

日本語を話したり、聞いて理解したりすることは難しい。児童用タブレットを常用し、翻訳機能を使って、会話や授業で分からないことを教師や友達に聞きながら、理解しようとしている。

3 指導の形態

週1回の取り出し、個別指導。

4 単元のねらい

- ・基本の動詞を使って話すことができる。

5 本時の学習

○本時の目標

一日の生活で使う動作の言葉を理解し、使えるようになる。

○展開

	学習活動	指導上の留意点・工夫
導入	(既習事項の復習)・あいさつ	・絵カードを使って、あいさつを覚えているか確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の時に使う動詞を覚えて、使えるように練習する。 「起きます」「食べます」「寝ます」 ・絵カードを見て、知っている動詞を選ぶ。 ・教師が話す動作の絵カードを選び、言い方を確認する。 ・否定の言い方を覚える。 「○○<u>ません</u>」 ・疑問の言い方を覚える。 「○○<u>ますか?</u>」 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを使って、動詞を覚える。 ・「○○ます」は、ていねいな言い方であることを伝える。 ・発音が難しい言葉は、ジェスチャーや絵カードで意味を確認した後で、練習する。 ・×のカードと一緒に絵カードを提示し、動詞の否定を確認する。 ・?のカードと一緒に絵カードを提示し疑問の

	<ul style="list-style-type: none"> ・文 「主語+述語」 「□□は ○○ます。」の文型を覚える。 私は 起きます。 あなたは 立ちます。 など ・「□□は ○○ません。」 ・「□□は ○○ますか？」 の文型も練習する。 ・課題プリントに取り組む。 「○○は □□ます。」 「○○は □□ません。」 「○○は □□ますか？」 ・音読練習 「かん字のはなし(1年下)」 	<ul style="list-style-type: none"> 言い方を確認する。 ・主語、述語を中国語で示し、誰は(誰が)、どうする(動詞)を、文を表すことにつなげる。 ・動詞の絵カードと動作主を示しながら、確認する。誰を示して、 ・言えるようになったら、書いて確認する。 ・範読、追い読みを行い、読み方を確認する。
まとめ	今日の文型のまとめを行う。	絵カードを見て、文で言えるように支援する。

6 成果と課題

[成果]

- ・ジェスチャーなど、動きを取り入れることで、児童が楽しんで学習に取り組むことができた。
- ・母語で既習事項の文型なので、理解は早かった。児童自身も、単語を覚えたら活用できることが分かっているのも、意欲的にたくさんの単語を覚えようとしていた。

[課題]

- ・動作を表す言葉について、書かれたもの読む力については向上したが、聞いて書き取る力については課題がある。継続的な指導によって、身に付けさせていきたい。

令和3年度 日本語指導教室実践例③

「日本語基礎」プログラム

1 単元名 ひろこさんは 7じに おきます。 (『ひろこさんの たのしい にほんご』 18課)

2 児童の実態

小学校3年生 (日本での滞在期間は1年2か月)

出身国 (母語) : ブラジル (ポルトガル語)

【日本語の力】

挨拶や日常生活で使う言葉は理解できる。ひらがなは全て読めるようになり、現在はカタカナの学習に取り組んでいる。

3 指導の形態

週2時間の取り出し個別指導。

4 単元のねらい

時間を付け加えて、予定や行動を伝える方法を理解し、日常生活の中で時間を付け加えて話したり、文章を書いたりすることができる。

5 本時の学習

○本時の目標

時間を付け加えて、予定や行動を伝える方法を理解する。

○展開

	学習活動	指導上の留意点・工夫
導入	○挨拶をする。 ○四時や九時など時計の読み方を確認する。	・今までに学習した文型を中心とした挨拶を行う。 ・タブレットと電子黒板を使い、時計アプリを提示する。
展開	○本時のめあてを知る。 「じかんを くわえて つたえよう。」 ○教師が一日の流れを、時間を合わせて話す。 ○児童が一日の流れを、時間を合わせて話す。 ○教科書の文章を読む。	・翻訳をして、意味を理解させる。 ・タブレットと電子黒板で画像を用意し、提示する。 ・教師が児童の一日の行動を、時間を中心に質問する。そして、児童が答えた時間をワークシートに書かせる。
まとめ	○文型プリントを使い、学習のまとめをする。	・書く前に発言をさせてから、記述させる。

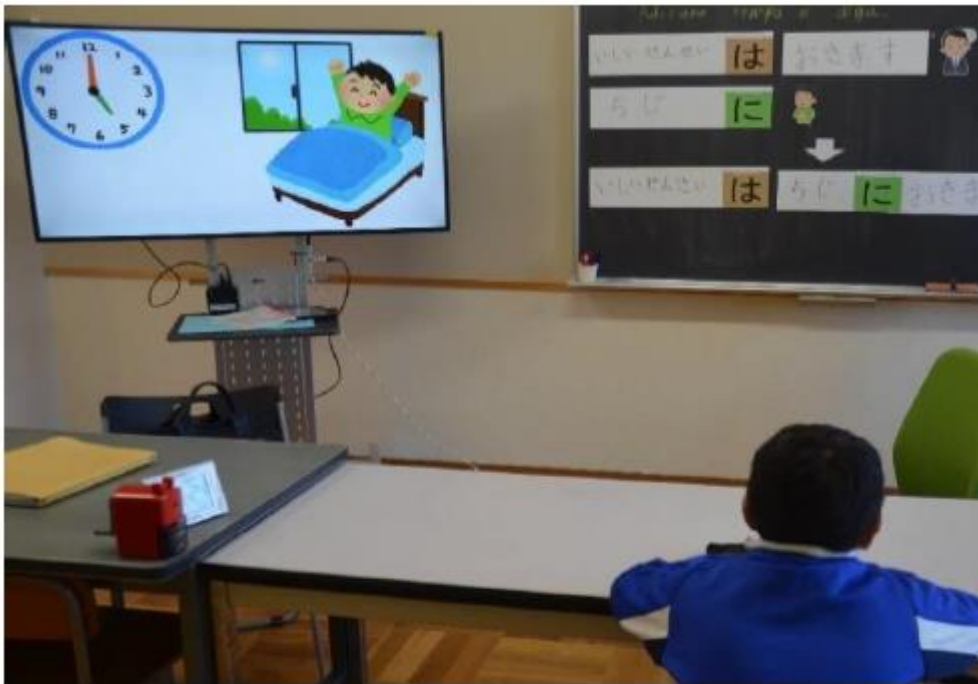
6 成果と課題

[成果]

- ・ワークシートを見せながら発表させたことにより、自身をもって発表することができていた。
- ・イラストや画像などをタブレットや電子黒板で提示したことにより、児童が意欲的に学習に取り組んでいた。
- ・ICT機器を活用し、視覚による情報を与えることで、文章と音声を一致させることができていた。

7 その他

電子黒板を使い、指導者が作成した、一日の流れと時間を関連付けたパワーポイントを提示した。

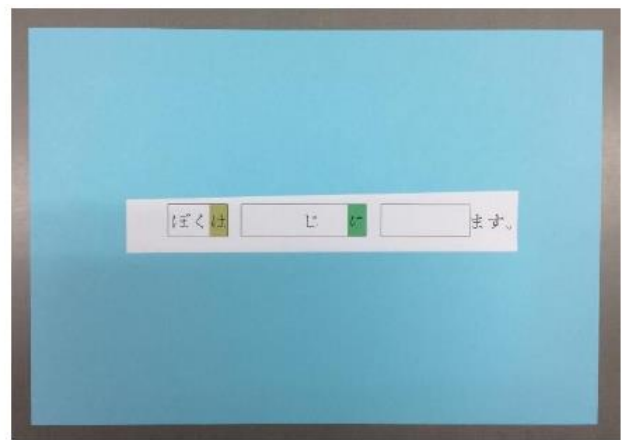


ワークシート

[表]



[裏]



令和3年度 日本語指導教室実践④

「技能別日本語」プログラム

1 単元名

「ありの行列」(国語3年(上) 光村図書)

2 児童の実態

小学校3年生(5歳後半に来日)

出身国(母語): 中国(中国語)

【日本語の力】

入学当初から日本語指導を週2~3時間行っており、現在では在籍学級の国語について行ける程度の日本語力を身につけている。書くことの経験不足から、文章を自分で考えまとめることが苦手である。

3 指導の形態

主に取り出し個別指導。学級担任と相談の上で、在籍学級の指導へ入り込むという形を取ることもある。

4 単元のねらい

- ・接続語や指示語に注意して読む力を身に付け、文章全体の構造の理解につなげる。

5 本時の学習

○本時の目標

文章に出てくる指示語に注目し、それらが何を指すか考えて自分の言葉で発表する。

○展開

	学習活動	指導上の留意点・工夫
導入 9分	1 今日の日付・曜日・天気を声に出して言う。(常時活動) 2 カードを使って語彙の学習をする。(常時活動)	○今日の天気に応じて、温度(暑い~寒い)や空模様について話を広げる。 ○カードをいくつか提示し、その中から一つ選ばせることで、児童が主体的に取り組めるようにする。 ○正解や不正解にこだわるのではなく、言葉へ親しませることを意識する。
展開 31分	3 「ありの行列」の流れを口頭で確認する。	○本時は在籍学級で数時間学習をした後、第一段落を読み込む時間に充てることを想定する。また、そうでなかったときには場合に応じて学習した範囲の大体の内容を確認する。 ○「問い」「答え」「例」など、文章全体の構成には触れない。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 0 auto; width: 80%;">「この」や「それ」などがあらかずことばをかんがえよう。</div>		

	<p>4 第一段落を読み、「その行列」(P.96 L2) が指す部分を考える。 ・アリの行列</p> <p>5 第一段落「それなのに」(P.96 L5) が指す部分を考える。 ・ありは、ものがよく見えません。</p> <p>6 指示語の練習問題に取り組む。</p>	<p>○線が引けなかったり、誤答が出たりした場合は、教師から問いかけて答えを引き出す。 ○指示語が指す箇所を説明する文型を確認する。「○○は△△を指しています。」</p> <p>○この「それ」は名詞、名詞句ではなく文の一部を指している。今までとは用法が少し異なることに留意する。 ○一字一句が同じでなくとも、大体の箇所が分かったなら正答とする。</p> <p>○「あれ」など、本時では取り上げなかった指示語も同様に考えられることに気づかせる。 ★学習の内容を生かし、指示語が示す内容を正しく捉えられる。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>7. 学習の感想を話す。</p>	<p>○教師から感想発表の文型を提示する。</p>

6 成果と課題

[成果]

- ・児童の実態に応じて、ワークシートを作成したことで、指示語の理解や、書く活動の導入をスムーズに行うことができた。

[課題]

- ・教材を用意できなかった文型については、理解が難しい様子が伺えた。児童の実態に応じた教材をできる限り用意していきたい。

ありの行列



夏になると、庭や公園のすみなどで、ありの行列を見かけることがあります。その行列は、ありの巣から、えさのある所まで、ずつつづいていきます。ありは、ものがよく見えません。それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。

○「その行列」は、なにをさしていますか。

「その行列」は、

をさしています。

○「それなのに」とは、どういうことですか。

ありは

とどういうことです。

令和3年度 日本語指導教室実践例⑤

「日本語と教科の統合学習」プログラム

1 単元名

「お話のさくしゃになろう」 [こくご2年(上) 光村図書]

2 児童の実態

小学校2年生(日本で出生)

【日本語の力】

DLA: 「話す」4、「聴く」4、「読む」「書く」判定不能(ひらがなは拾い読み程度、文章の記述は困難だったため)

以上の結果から10月より日本語の取り出し指導を開始。第1学年修了時には、ひらがな・カタカナの読み書きができるようになり、簡単な漢字も読めるようになった。現在、日本語指導では、音読の練習、教科書本文の内容理解、簡単な作文の記述練習、漢字の意味や使い方等の指導を行っている。

3 指導の形態

日本語教室での取り出し個別指導

4 単元のねらい

[教科の目標]

- ・相手に分かるように、どの人物が何をしたのかが分かるように書くことができる。
- ・人物が話した言葉を考え、いろいろな「話すこと」を表す言葉を使うことができる。

[日本語の目標]

- ・「○○(人物の名前)は、『……』と△△しました。」の表現モデルを使って、どの人物が、どのように話したのかを表現することができる。

5 本時の授業

○本時の目標

どの人物が何をしたのかが分かるように書くことができる。

○展開

	学習活動	指導上の留意点(支援の方法)
導入	1 イラストを使い、「言う」と「さげぶ」の違いを捉える。 2 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> じんぶつが、どのように話したのか、よくわかる文を書こう。 </div>	◎言い方が変わると、読む人のとらえ方が変わることに気づかせる。 ◎本時のめあてをいっしょに読み、確認させる。
	3 イラストの場面から、誰がどのように話したのかを考えて表現する。	◎児童が様々な表現を理解しやすいよう、分かりやすいイラストを提示する。

展開	(1) おまわりさんの例で「言う」と「たずねる」「答える」の違いを捉え、人物がどのように話したのかがよく分かる文の書き方を考える。	◎モデル文をもとに、人物がどのように話したのかがわかる文章の書き方を、表現モデルとして提示し、理解させる。 ◎教科書にある例「きく、たずねる、答える、知らせる、教える、つたえる、さげぶ」を取り上げ、例示する。
	(2) 様々なイラストから、その場面でどう表現したらよいかを考え、いろいろな「『話すこと』をあらわすことば」を確認する。	◎(1)で知った文章の書き方(表現モデル)を使って、各イラストの場面でどう表現するかを考えさせ、発表させたり書かせたりする。
4	ストーリーのある3コマイラストで練習をする。	◎学習した「話すことをあらわすことば」を使って話したり書いたりできるよう、表現モデルを利用させたり対話で促したりする。
まとめ	5 本時のまとめ 今日の学習をふり返る。	◎本時のめあてをふり返り、学んだことを在籍学級で生かせるよう声をかける。

6 成果と課題

[成果]

児童にとって難しい表現は、イラストにすることにより、理解しやすくなったようだった。またモデル文を用意することで、どのように発表したら良いかが理解できたようだった。イラストの場面を見ながら、発表させたり書かせたりしたが、表現モデルを使うことで積極的に発表し、また意欲的に記述することができた。

[課題]

今後は、本字で学んだ新たな語彙や表現の仕方が定着できるよう、他の教科や単元で、繰り返し使わせることで定着を図る必要がある。

モデル文

と 答えました。	「あなた てものです。」	おまわり さんは、	とたずね ました。	「〇小は どですか。」	おばあさ んは、
-------------	-----------------	--------------	--------------	----------------	-------------

表現モデル①

と ました。	「 」	は、	と ました。	「 」	は、
-----------	--------	----	-----------	--------	----

青…しんがつ
赤…「話すこと」をあらわすことば

「話すこと」語彙

さげぶ	つたえる	教える	知らせる	答える	たずねる	きく
-----	------	-----	------	-----	------	----

いろいろな「話すこと」をあらわすことば

表現モデル②

「 」	「 」	「 」	「 」
--------	--------	--------	--------

青…しんがつ
赤…「話すこと」をあらわすことば

令和3年度 日本語指導教室実践例⑥

「日本語と教科の統合学習」プログラム

1 単元名

「未来をつくり出す工業生産」 (社会5年 教育出版)

2 児童の実態

小学校5年生 (小学校1年生時に来日)

出身国 (母語) : フィリピン (タガログ語・英語)

【日本語の力】

①聞く・話す (DLA「話す」5、「聴く」5)

- ・日常会話に支障はないが、自分の思いや考えを会話や文章で表現するのは難しい。

②読む・書く (DLA「読む」4、DLA「書く」4)

- ・漢字は苦手意識が強い。
- ・ルビを振ることで長くまとまった文章を読むことができ、大まかに内容をとらえられるようになってきた。
- ・簡単な短い文章は書けるが、自分の考えをまとめたり、構成を考えたりすることは難しい。

3 指導の形態

取り出しによる個別指導。

4 単元のねらい

[教科の目標]

- ・我が国の自動車生産における工場での製造工程や工場相互の協力関係、生産に関わる人々の優れた技術、情報通信技術の活用など、様々な工夫や努力が国民生活の維持、向上に関わっていることを理解することができるとともに、地図帳や統計などの基礎的な資料を通して、情報を適切に調べまとめることができる。 [知識及び技能]
- ・我が国の自動車生産が国民生活に果たす役割、消費者の需要や環境への影響を踏まえた取組、高度な技術を生かした取組に着目して多角的に考察し、今後の社会における自動車産業が国民生活に与える影響を考え、説明することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- ・我が国の自動車産業について、意欲的に調べたり考えたりすることや、それらを表現しようとする主体的な学習態度を養うとともに、我が国の産業の発展やよりよい社会を実現していくために共に努力し、協力しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

[日本語の目標]

- ・自動車がどのように作られていくのかを知り、表現モデルを使いながら、写真を用いてその過程を、大まかに伝えることができる。

- ・語彙：プレス、ようせつ、とそう、組み立て、検査、ライン
- ・表現：①～～することを、○○といいます。
②（場所・工程）では、（作業）をします。
例：①鉄板を打ちぬいたり、曲げたりすることをプレスといいます。
②プレス工場では、車体のドアやボンネットを作ります。

5 本時の学習



○本時の目標

- ・自動車がどのように作られていくのかを知る。〔知識及び技能〕
- ・写真を用いて自動車の生産過程を表現モデルを使いながら、大まかに伝えることができる。

〔日本語〕

○展開

	学習活動○ 支援のアイデア☆	留意点・備考
導入	<p>○単元名から工業生産とは何か考える。</p> <p>☆工業生産という言葉を理解するために、資源→加工→製品という流れをスライドに入れる。机や牛乳を例に複数の材料を加工して製品になっていることをつかませる。(理解支援)</p> <p>☆児童が好きなマイクラフトの世界とリンクさせて、資源から作るを意識させる。(理解支援)</p> <p>○工業製品があることで私たちの暮らしはどう変わったか。</p> <p>☆フィリピン行くことを想起させること、工業製品がもたらした生活の変化を考える。(理解支援)</p> <p>○日本では自動車産業が盛んであることに触れる。</p> <p>☆教科書のグラフを取り上げ、日本の工業製品の種類、自動車生産について傾向をつかませる。(理解支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内にあるものを実際に用いて、ほとんど工業製品であることに気付かせる。 ・教科書のイラストから食べ物も加工されて作られたものであることを知る。 ・製品はすべて、資源→加工→製品という流れで人間が作り出しているということに気付かせる。 ・工業生産と暮らしの変化について考えさせる。 ・グラフから読み取る。 ・グラフの見方について指導する。その他は多くても、いろいろな小さな値が合わさっているので除外することを指導する。
展開	<p>○自動車はどうやって作られているのか考える。</p> <p>⊗自動車はどのように作られているのだろう。</p> <p>☆児童が話しやすいように「材料、作業、1台を作るのにどのくらいの時間がかかるのか」という項目を示す。</p> <p>○自動車工場の動画を見る。(日産自動車)</p> <p>☆聞き取りやすさ、動画をゆっくり見る、作業と言葉をリンクさせるために0.75倍速で視聴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の予想について対話する。 ・児童から出る単語やまとまらない表現を大切にしながら、今日の授業後の変化へとつなげる。 ・今日のゴール(知る→説明する)をとらえさせる。 ・難しそうな言葉はわかりやすい言葉で説明し、理解を助ける。

	<p>する。(理解支援)</p> <p>○答え合わせをしながら、作業を確認する。</p> <p>☆作業工程と写真をカードにしておくことで、難しい作業工程の言葉とどんな作業であるかを結びつける。(理解支援)</p> <p>☆実際に、写真カードを動かしながら、順に並べることで流れを意識させる。(理解支援)</p> <p>☆バンパーや車体などの言葉の理解の助けになるように、自動車のおもちゃを見せながら説明ができるようにする。(表現支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの作業内容を確認する。 ・作業は機械中心に行うのか、人が中心に行うのか確認する。 ・ラインの言葉と意味を確認する。 <p>○ロボットが作業するところと、人が作業をするところがあるのはなぜか。</p> <p>○なぜラインで作業（流れ作業）をするのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程と作業の様子がわかる写真カードを使いながら、キーワードをとらえさせる。(プレス、ようせつ、とそう、組み立て、検査)   <ul style="list-style-type: none"> ・機械と人が分担したり、助け合ったりしながら、自動車が作られていることに気付かせる。 ・ライン（流れ作業）の良さに気付かせる。
<p>まとめ</p>	<p>○自動車づくりの流れを説明させる。</p> <p>☆表現モデルを提示し、発表がしやすいようにする。(表現支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を指差しながら、説明させる。 ・表現やキーワードを掲示しておく。 ・自学級の授業につながるよう対話する。

6 成果と課題

[成果]

- ・言葉のハンデを持つ児童にとって、スライドでの提示や動画などは大変有効である。事前に準備するだけでなく、言葉での説明が難しいときにその場ですぐに検索できるのはとても良い。また、指導したい資料や写真を切りぬいたことで、内容を絞って指導ができた。

[課題]

- ・教科書のスキャン、パワーポイントの編集など、時間がかかった。デジタル教科書等の活用により、効率的な準備が進められるとよい。
- ・オンラインでの授業公開や教材データバンクなど、担当者間の交流が進むとありがたい。

令和3年度 日本語指導教室実践例⑦

「教科の補習」プログラム

1 単元名

「情報を読む」 全国学力学習状況調査 H28国語B1問題から

2 児童の実態

中学校2年生（日本滞在期間 約2年）

出身国（母語）：中国（中国語）

【日本語の力】

日本語の会話は十分でき、文字の認識も語彙も増えてきている。文章を読んで理解したり、答えたりすることには時間がかかる。

3 指導の形態

日本語教室での取り出し個別指導（週1時間）

4 単元のねらい

[教科の目標]

- ・文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨をとらえることができる。

[日本語の目標]

- <読む>書かれていることをとらえること
- <読む>目的に応じて必要な情報を読み取ること
- <書く>自分の考えを具体的に書くこと

5 本時の授業

○本時の目標

[教科の目標]

- ・要旨をとらえることができる。

[日本語の目標]

- ・書かれていることを読み取ることができる。

○展開

	学習活動	指導上の留意点・工夫
導入	1 はじめの挨拶をする。 2 日常会話をする。 ・最近のできごと ・今日の日付や曜日、天気を言う。 ・悩み、困っていること。	・児童の様子を確かめながら、様々な話題に触れ、意志の疎通を図る。 ・教師側から、話すきっかけを作り、児童が安心して学習に取り組めるようにする。
展開	3 問題に取り組む (1) 問題を読む。	・わからない文字、意味の分からないことばを確認する。

<ul style="list-style-type: none"> • どんないことが書かれていたのか。 • わかったことは何か。 • 「うるし」「伝統文化」「職人」 <p>(2) 設問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設問一 読むこと • 設問二 読むこと • 設問三 書くこと・読むこと 	<ul style="list-style-type: none"> • 何が書かれていたのか、内容の確認をする。 • 映像、文章から理解の難しい語句について確認する。 • 問いに答えを書かせる。 • キーワードに気をつけさせる。 • 答えた根拠を聞く。 • 設問三では、記述式となるので条件の確認をしっかりとる。
--	---

<p>4 答え合わせをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 実用的な文章を読み、内容を的確に捉えさせる。 • 目的に応じて情報を関連付けながら、必要な情報をつかませるようにする。 • 間違えた場合は、どこでつまづいたのかを確認しながら進める。 • 児童の自信につながるような声かけをする。
<p>まとめ</p> <p>5 本時のまとめ</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 課題を焦点化し、今後の学習に生かす。

6 成果と課題

[成果]

- 全国学力学習状況調査の問題にふれることにより、テスト形式の問題に慣れることができた。
- 自力で解決できた達成感を持ちながら、学習を進めることができた。
- 文章から必要な情報を見つけ、問題を考えることができた。

[課題]

- 児童の実態に応じた、適切な問題を用意することが難しい。
- 言葉の意味が分からないときに、他に置き換えて考えることが難しい。